

市長記者会見記録

日時：2024年7月23日（火）14時00分～14時17分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

<内容>

【市政一般】

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速、質疑に入りますが、進行につきましては、幹事社の記者様、よろしくお願いいたします。

《アメリカ・ニューヨーク州、マサチューセッツ州の訪問について》

【日経】 じゃあ、幹事社の日経新聞からお伺いします。

アメリカのニューヨーク州、マサチューセッツ州視察、無事終わりました。そこで新たな気づきがあったかと思います。ぜひお聞かせください。

【市長】 2つの拠点というか、ニューヨークとボストン、両方行かせていただいたんですけども、両方の拠点都市に共通するのは、やはりエコシステムが非常にうまく形成されているさまを拝見することができまして、例えば、ニューヨークのほうですと、アルバニーのIBMが入っている研究所はNPOのニューヨーク・クリエイツという団体が、その大きな建物、施設を全部所有して、そしてIBMが間借りして入っていると、そこにいろんな企業が入ってやっているわけなんですけれども、そこでいろんな企業が集まって、最先端な企業と行われているんですけれども、クローズドで自社のセキュリティーみたいな、非常に守られながらも、オープンイノベーションが展開されているという、クローズド・オープンイノベーションといった仕組みが、州の意向を受けながら、独立した形で、そのNPOがエリア全体のエコシステムを形成しているというさまを見て、もう本当に驚きましたし、非常に南辺りでも、これからの展開に大いに役立つと思いました。南辺りって、新川崎のですね。

ボストンのほうは、同じようにMITを中心としたスタートアップだとか、投資家だとか、そういう人たちが非常にいい環境を整えていて、次々とスタートアップが出てくる環境が生まれる仕組みを勉強させていただいて、これもまた南辺りで非常に有効に使えるというか、うーん、こういうものを形成していかなくちゃいけないなということに非常に参考になる視察でありました。

【日経】 その中で、これはぜひ川崎、新川崎、南辺りで導入したいなと思うような仕掛け、仕組みというものは何かありましたか。

【市長】 もう随所にあり過ぎるというぐらいあったんですけれども、ただ、あまりにもちょっと違うなと思ったのは、間に入っている中間的な支援組織というものがNPOという形で運営されていて、どうも日本でいうと、NPOという、それほど大きくない組織で、

特に日本だと、NPOという福祉関係が圧倒的なんですけども、こういった産業のエコシステムをつくり出すような組織が、先ほど申し上げたニューヨーク・クリエイティブみたいなNPOは、もう800人からの組織をしていて、本当に企業のような活動をしているんですけども、というような形でありました。

それと日本に当てはめると、非常にそれは難しいなと、税制上も難しいなと思うんですけども、ただ、そういったつなぎをする部分はどうしても必要で、川崎市にも支援機関というか、産振財団（※産業振興財団）とかありますけれども、そういった形がもっと有機的に機能しないとなかなか難しいなと思った部分もあります。ですから、アメリカで見てきたことを、どう川崎なりにアレンジしてアプライしていくかということを考えていかなくちゃいけないなと思いました。

それから、世界の研究者を集めていくということに関しては、やはり住環境ですとか、そういったものもしっかりと整えていく必要があるなと思いましたので、病院、学校、その他、そういった生活環境という、建物ということだけじゃなくて、周りの環境そのものを変えていかなければならないということも非常に参考になる事例でありました。

【日経】 ありがとうございます。

《パリ2024オリンピック・パラリンピックについて》

【毎日】 幹事社の毎日新聞です。お世話になります。パリオリンピック開会が近づいて…。

【市長】 ん？

【毎日】 パリ五輪ですけども。

【市長】 ああ、パリ五輪。

【毎日】 開会が近づいてきました。川崎ゆかりの選手もたくさんおられますけれども、このタイミングで、何かエールと、あるいは所感等おありでしたら教えてください。

【市長】 本市ゆかりのある選手、オリンピックで23名、パラリンピックで9人と、計32人もいらっしゃるということで、本当に様々な競技に参加しているということなので、本当にうれしく思いますし、ぜひ、私もそうですけれども、川崎市民で市ゆかりの選手を、大いに頑張っていただきたいとエールを送りたいと思っています。

川崎市でも応援ホームページを立ち上げたりですとか、あるいはパブリックビューイングを企画していたり、区役所によっては横断幕ですとか、地域の皆さん独自の横断幕を作って掲出するなど、大分盛り上がってきているなと思いますので、全ての市民の皆さんに勇気と感動を与えてもらえればありがたいなと思いますし、特に子供たちに力強い姿を見せていただきたいなと思っています。

【毎日】 メダル獲得者が出た場合に、特段、何か考えてらっしゃることはありますか。

【市長】 そうなったときに考えますが、メダルということになりますと、当然、市の規定によると、スポーツ特別賞ですとか、そういったことはありますので。

《学校プールの管理等について》

【東京】 東京新聞です。7月10日に文科省が学校プールの管理の在り方についてという

通知を教育委員会に出したと思うんですけれども、その中で、学校プールの管理業務が教員にとって過度な負担につながっている事態も見受けられるですとか、教員が損害賠償の責任を負うおそれもある中で勤務する状況は望ましくないですとか、損害倍率請求を一律に行うのではなくということが書かれています。

今年については、川崎市内では流出事故は起きていないということは市教委のほうには確認しているんですけれども、一方で、去年の会見で市長は、教員の働き方の問題もあるけれども、その話とは全く別であるということを強調されていらっしゃったりとか、あとは過失は過失であるということを強調されていらっしゃったかと思いますけれども、今後、市内でまたプールの流出事故があった場合の対応というものについては、どのように捉えていらっしゃるか、お聞かせいただけますか。

【市長】 今後については、この通知を踏まえて、教育委員会のほうで検討していくものだと思います。

【東京】 そうなってくると、やっぱりその通知が出る前は半額の賠償をしたけれども、今後については、また前例踏襲ではない対応を、そのときに考えていく形になっていく。

【市長】 誤解のないように言っておきますけれども、前回のときも私が賠償しろとか決めたということではありません。あくまでも教育委員会の判断ということですので、個別の事案に応じて適切に判断していくものだと思います。

《後援会に対する寄附金の返還について》

【東京】 あと別件でなんですけれども、先ほど後援会のほうからの情報提供をいただきました。母子育成会の前理事長に対して寄附を返金されたということなんですけれども、これについては代理人を立てられてのやり取りだったとは聞いてはいるんですけれども、深瀬氏の説明が議会の最終日に取り上げられましたけれども、あれと同じような説明が前理事長側から後援会に対してあったという理解でよろしいのでしょうか。

【市長】 いえ、純粋に献金をお返しするというためだけに代理人は話したと聞いていますので、特に何のやり取りもないと聞いていますが。

【東京】 議会の答弁では、法人のお金なのか個人のお金なのかも区別がつかないようなものを受け取るわけにはいかないと説明されていらっしゃったと思うんですけれども、その法人のお金なのか個人のお金なのかということは問わずに、とりあえずお返ししたという形になるのでしょうか。

【市長】 そういうことです。

【東京】 ありがとうございます。

【読売】 読売新聞です。すいません。今のに関連してなんですけれども、改めて返還の理由としては、市長としては、どういう理由で返還したかというのは、もう一度御説明いただいてもよろしいでしょうか。

【市長】 そもそも、議会質問のときにも言いましたけれども、個人で受けているものに対して、返還する理由が見つからないと当初思っていたんですけれども、ただ、議会で指摘さ

れたように、その真偽は分かりませんが、個人のお金なのか法人のお金なのかも区別がつかないようなやり取りがあったとするならば、それは受け取るべき話ではないので、要するに、個人なのか法人なのかと。私は法人は受けられませんけれども、そんなぐちゃちゃになっているようなお金というのは受け取るべきではないという形でお返ししたということです。

ちょっと付け加えさせていただきますと、ちょっと時間がかかってしまったのは、献金を返すことというのは、ややそんな簡単な話じゃないらしく、弁護士に相談して、いろいろ総務省なんかとも相談して、結果的に契約解除的なものを行わないと返せない。要するに、贈与され、贈与し返すみたいな、贈与契約みたいな話になってしまうので、何かそれをすごく確認するのに多少時間がかかったということでもあります。僕もよく分かりませんが、適切にやるために少し時間がかかったということでもあります。

【読売】 法人のお金なのか個人のお金なのかという出どころがまだ分からない状況だと思うんですけど、それは市長としては警察の捜査を待ちたいというような考え方でよろしいのでしょうか。

【市長】 まあ、そうですね。というか、何て言ったらいいんでしょう。いや、釈然としなないものだから、もうお返しするという感じですよ。要は、どっちとも説明つかないみたいな話というふうな、出どころが分からないようなお金は私は受け取れないという、そういう判断でお返しすることにしたまでで、それがどうなっているのかというのは、もう私の関知するところではありませんので。

《アメリカ・ニューヨーク州、マサチューセッツ州の訪問について》

【読売】 ありがとうございます。

ごめんなさい。この間の視察に関連してなんですけれども、量子イノベーションパークの計画が。

【市長】 何の計画ですか。

【読売】 量子イノベーションパーク。

【市長】 ああ、量子イノベーション。はいはい。

【読売】 の計画が秋にされるということなんですけれども、今回の視察で計画に反映させたい点とか、具体的にそういうところがあれば教えていただきたいです。

【市長】 今回の視察では、これまでも新川崎の拠点ではIBMと慶應が大きなプレーヤーであったことは間違いありませんけれども、これからは慶應さんと機能更新に向けての大きな転換を図っていくという中で、これからはIBM、量子コンピューターを設置している主体、東大が主体になるんですけれども、ただ、これからは量子イノベーションを形成していくに当たっては、大きなプレーヤーであることは間違いないので、そこの皆さんとのコミュニケーションをさらに活発化していくということで、ダリオ・ギルという上級副社長とお会いして、いろんなコミュニケーションを取りました。これからは量子イノベーションパークを前に進めるための具体的な取組について、いろんな意見交換をしてきましたので、学ん

できたことというか、気づいたことを、しっかりとイノベーションパークの中に反映するようにやっていきたいなと思っています。

それと、施設だけではなく、先ほど申し上げたとおり、エリア全体を、やっぱりマネージしていかないと、もう既に新川崎のところに量子に関するスタートアップみたいなのが、もう既に何社か入居してきていますけれども、もう少し大きなクラスターをつくっていくためには、先ほど申し上げたとおりのエコシステムを形成していく要素を、もう少し付加していかなくちゃいけないなと思っていますので、秋の計画に向けて、しっかり慶應さんやIBMさんなどともコミュニケーションをもっと深めていきたいと思っています。

《東京都知事選挙について》

【読売】 ありがとうございます。

ちょっとまた市政と話が変わるんですけど、都知事選の投開票がこの間あって、小池百合子知事が再選したというところの受け止めと、無党派層が結構浸透したのかなという所感を持ったんですけど、そこら辺の考えがあれば教えてください。

【市長】 知事選に関しては、何となく予想どおりだったかなという感じはありますね。石丸さんがすごく伸ばしたというのは、お、すごいなというので、そこまでとは思ってなかったもので、ちょっとびっくりしたというのはありましたけれども、結果的には小池知事が当選されるのというのは順当な感じはいたしましたけれども。

【読売】 既存政党へのそういう不信感みたいなのもあったのかなと思うんですけど、そこら辺はいかがですか。

【市長】 やっぱり世論調査なんか、最近の見ていても、支持政党なしというのが、もう過半数超えていますという状況というのは、今の政治状況をよく表しているんじゃないかという、非常に皮膚感覚として分かるなという感じはします。

《令和6年度普通交付税の不交付決定について》

【読売】 最後に1問なんですけど、今日、総務省が不交付団体として、川崎市も今年度も不交付団体ということを発表して、それについての受け止め、お願いします。

【市長】 不交付団体って、本来、ものすごく喜ぶべき話なんですけど、それに対する、不交付団体に対する、ややペナルティー的なものは非常に多いので、ふるさと納税しかりですけども、こういったところは引き続き課題になっていくので、そういう意味では、もっと突き抜けた不交付団体にならないと、ある意味、東京都のように恩恵は享受できないということなので、引き続き緊張感を持って、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 以上、よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして、市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当